

「ウィルタネン彗星(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「ウィルタネン彗星」という彗星が、話題になっている。12月中旬に4等～3等まで増光し、久々に肉眼での観望が可能になる可能性が高い。しかも、おうし座にも接近し、北半球では非常に観望条件が良い。

彗星という天体は、太陽系天体の一種なのだが、太陽から遠い時はほとんど尾が見えず、目視はもちろん、望遠鏡での観測も難しい。しかし、地球近傍まで接近すると、太陽の影響で、太陽の反対側に尾ができる。その時点で初めて見えるようになる。しかし、尾が見えるようになる頃には地球軌道の内側に入っていて、彗星はかなり太陽に近づいている。金星と同じで、日没直前か、日の出直前にしか見られないことが多い。



「屋敷森とヘール・ボップ彗星」

1997年／埼玉県羽生市郊外／撮影；C. Tanaka



「八ヶ岳の裾野に沈む百武彗星」

1996年／野辺山高原／撮影；C. Tanaka



「落葉松の森に沈むヘール・ボップ彗星」

1997年／栃木県奥日光／撮影；C. Tanaka

これらの写真を見てもわかるように、彗星の美しい姿を見たり撮影可能な時刻には、彗星は地平線近くにしか見えないことが多いのだ。逆に言うと、彗星の写真は、「地上の風景を入れた、情景的な写真」を残せるチャンスが多い。さて、今回話題になっている「ウィルタネン彗星」はどんな見え方をするのだろうか？